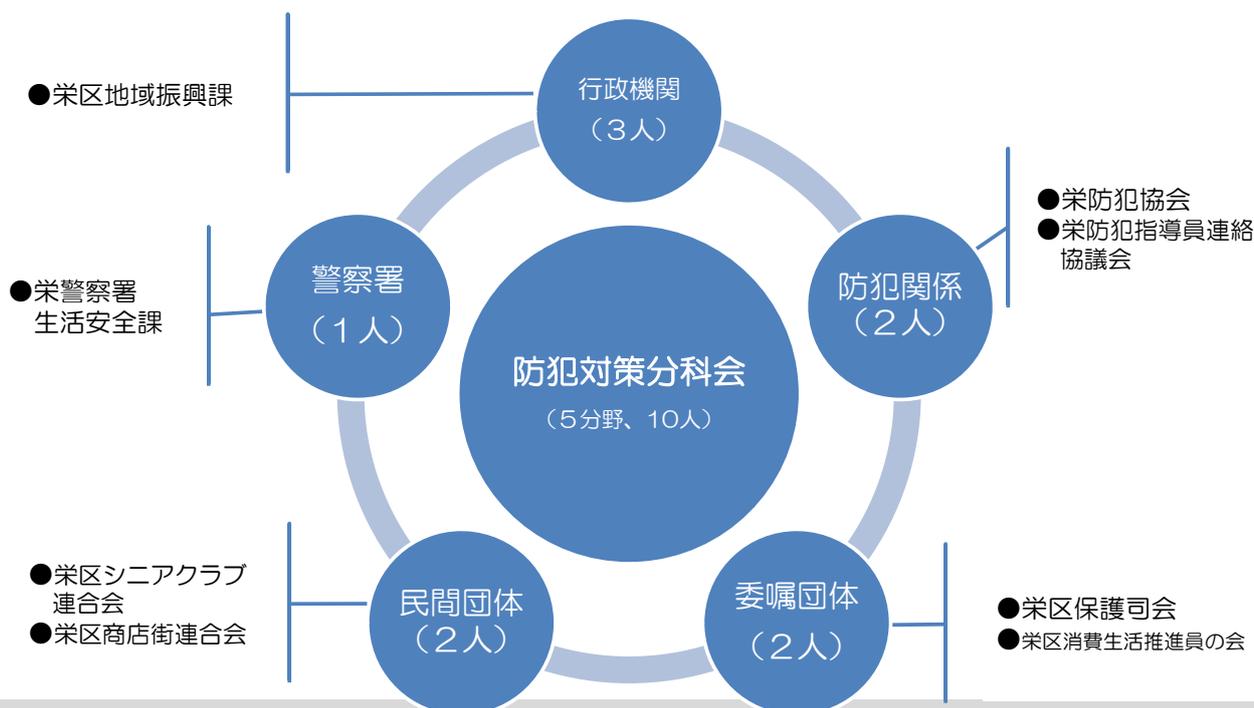


横浜市栄区セーフコミュニティ分野別分科会
防犯対策分科会

座長 持田 忠
発表者 岡田 忠男



防犯対策分科会の構成

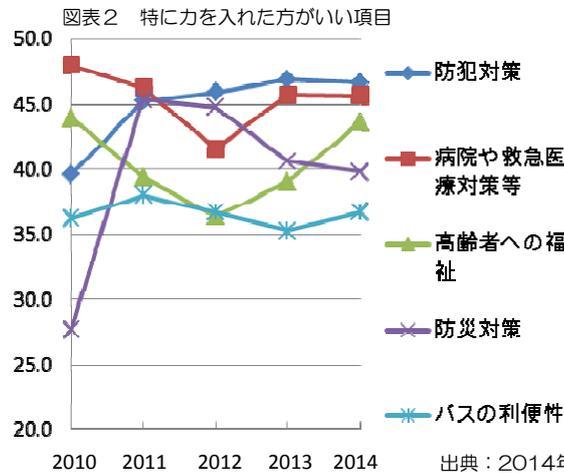


図表1 防犯対策分科会の構成

分科会設立の背景

～栄区民アンケート結果～

- 特に力を入れた方がいい項目として、「防犯対策」が3年連続で最も高かった



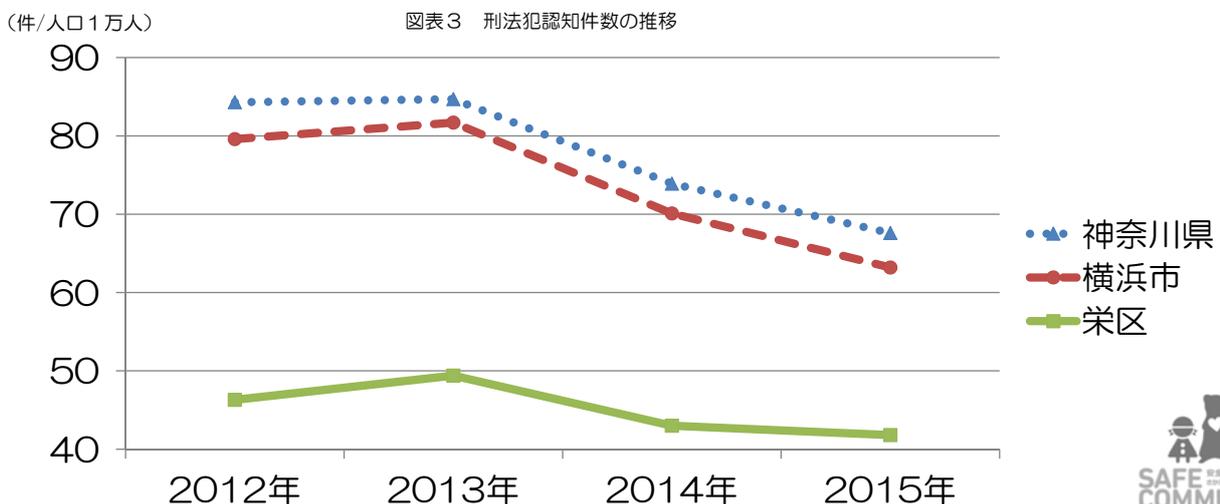
2015年に防犯対策分科会を設立



分科会設立の背景

～刑法犯認知件数の推移～

- 刑法犯認知件数は神奈川県や横浜市と比較すると低い割合となっている。神奈川県、横浜市、栄区とも件数は減少傾向にあるが、神奈川県や横浜市と比較すると栄区の減り方はやや少ない



栄区の刑法犯罪の内訳

凶悪犯罪や粗暴犯罪は、少ない！！

- 2015年の刑法犯認知件数（514件）のうち、1位・2位は乗り物盗が占める。次いで、車上ねらい、振り込め詐欺、空き巣と続く

図表4 刑法犯認知件数の内訳（2015年）

順位	目的	件数	割合
1	自転車盗	119	23%
2	オートバイ盗	35	7%
3	車上ねらい	33	7%
4	振り込め詐欺	27	5%
5	空き巣	25	5%
6	自動車盗	12	2%
7	その他	263	51%

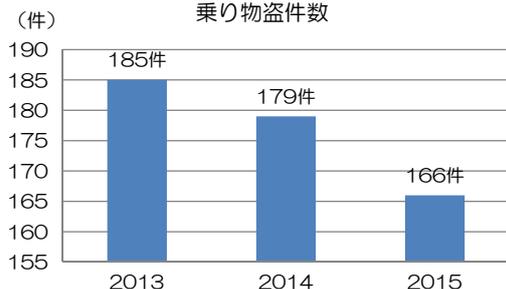


出典：神奈川県警

乗り物盗・車上ねらいへの対策

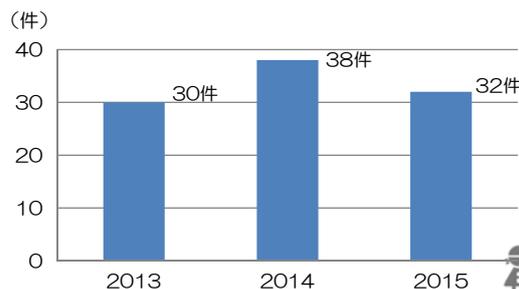
- 防犯対策分科会が設立される2015年までの間、乗り物盗の被害件数は減少傾向、車上ねらいの被害件数は概ね横ばい
- 乗り物盗・車上ねらいへの対策として、区連合町内会を通じた注意喚起や、情報配信サービスを活用した呼びかけ等、不特定多数の区民に対して啓発活動を実施

図表5 栄区内で起きた自転車・オートバイ等の乗り物盗件数



出典：栄警察署

図表6 栄区内で起きた車上ねらいの件数



出典：栄警察署



課題設定の背景

～栄区の振り込め詐欺の現状～

□ 被害金額は2013年以降急増し、高い金額で推移している



必要！

振り込め詐欺への重点的な対策が必要



振り込め詐欺とは

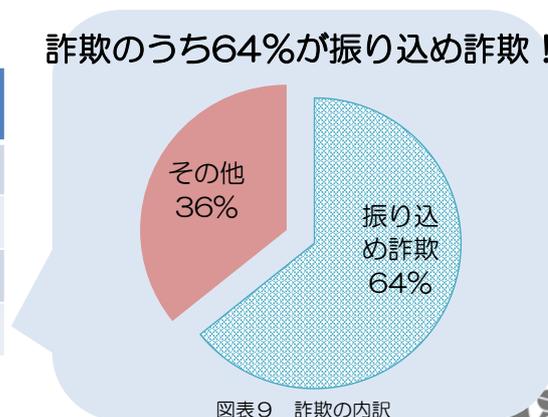
□ 電話をかけるなどして、直接顔を合わせることなく相手をだまし、指定した預貯金口座にお金を振り込ませるなどの方法で、お金をだまし取る犯罪。近年、詐欺のうち6割を振り込め詐欺が占めている

図表8 栄区の詐欺件数のうち振り込め詐欺件数の割合

年	詐欺件数	うち振り込め詐欺件数	割合
2014年	40件	27件	67.5%
2015年	46件	27件	58.7%
2016年	37件	25件	67.6%
計	123件	79件	64.2%

出典：栄警察署

詐欺のうち64%が振り込め詐欺！



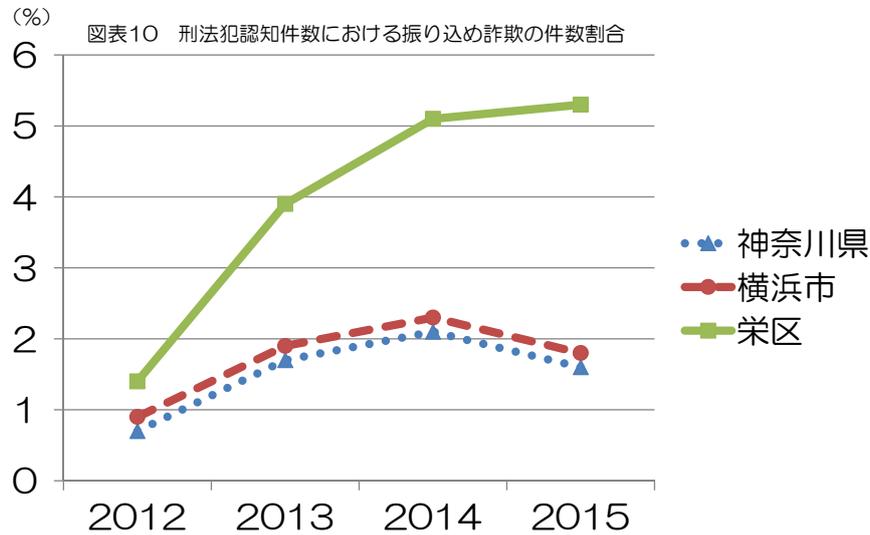
図表9 詐欺の内訳



課題設定の背景

～振り込め詐欺認知件数の推移～

- 刑法犯認知件数における振り込め詐欺の件数の割合は増加傾向にあり、神奈川県や横浜市と比較しても多い割合で推移している

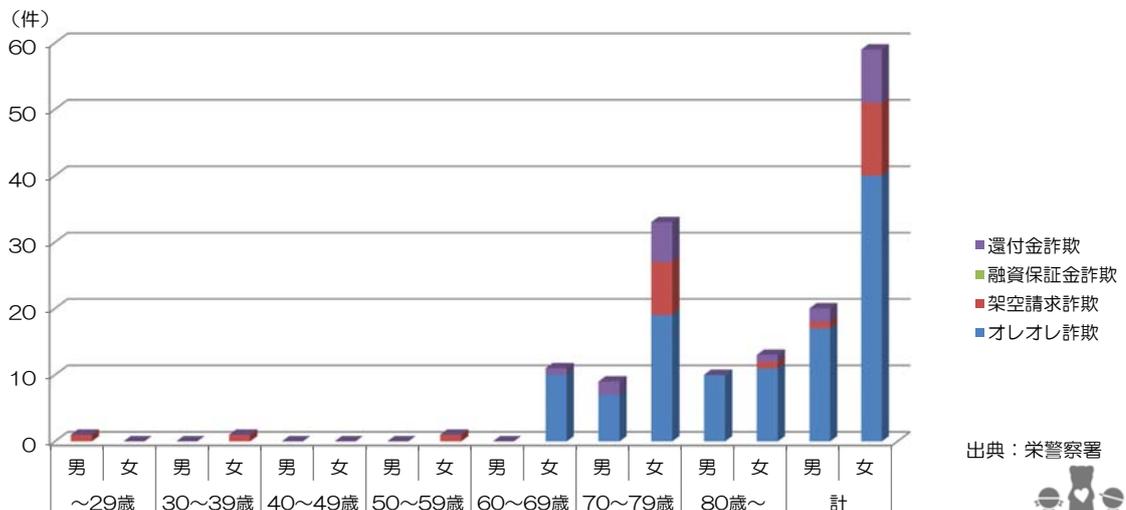


出典：神奈川県警・横浜市市民局

課題設定の背景

～振り込め詐欺の被害者層～

- 被害者層の内訳をみると、年代別では70歳代が、男女別では女性が、種類別ではオレオレ詐欺が多い傾向にある

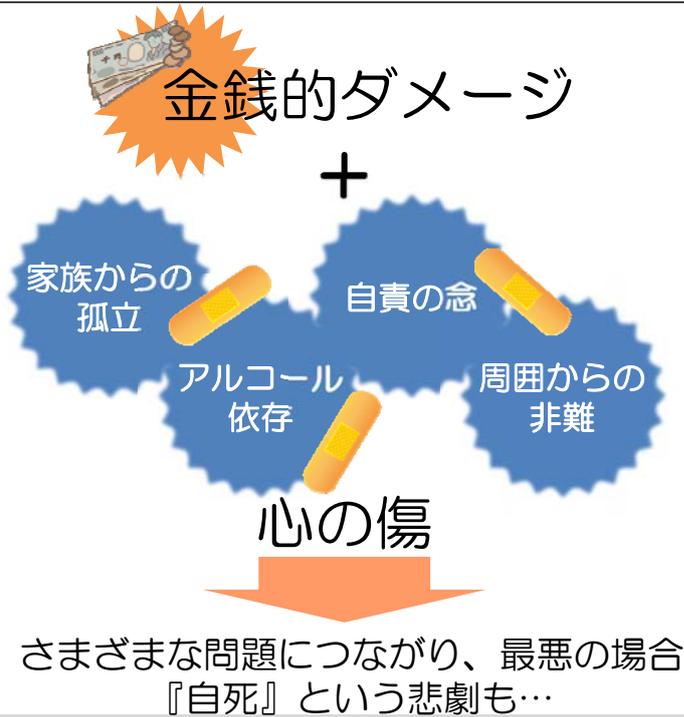


出典：栄警察署



図表11 被害者の年代別・男女別・種類別内訳 (2014～2016年)

振り込め詐欺の被害とは



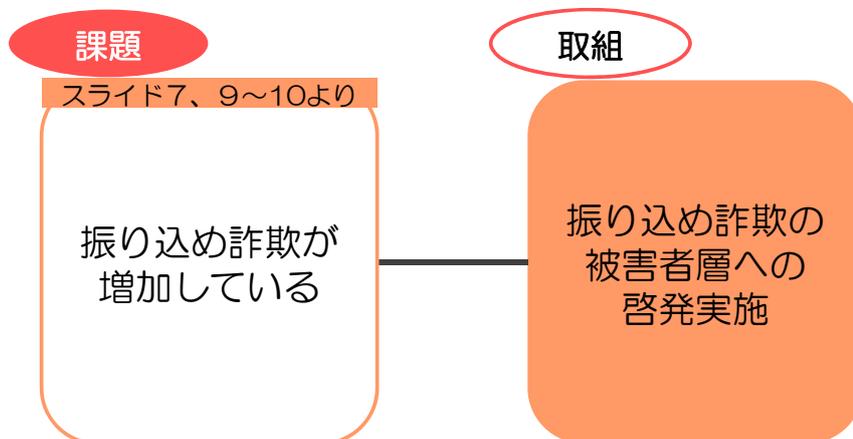
図表12 振り込め詐欺の被害とは

図表13 振り込め詐欺の被害に関する新聞記事



(出典：2016年2月2日 神奈川新聞)

課題と対策



図表14 課題と対策

課題に対する取組の概要

		国・県・警察	市・区	地域レベル
課題① 振り込め詐欺が 増加している	環境改善	金融機関等との連携	SC	啓発物品の作成・配布
		相談窓口の開設		
		防犯CSR		
	規則・罰則	刑罰法規		
		規制・取り締まり		
	教育・啓発	出前講座・講演	SC	犯罪情報配信
				SC 防犯パトロール
		SC		街頭啓発・金融機関での声掛け

図表15 課題に対する取組の概要

取組 振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

分科会委員が振り込め詐欺の被害者層である高齢者を対象に講座・講演を実施することで、振り込め詐欺に対する意識を深め、被害拡大を防止します。

- 自治会町内会等での出前講座
- 地域ケアプラザ（※）など施設における講演



図表16 栄区消費生活推進員の会による出前講座



図表17 栄防犯指導員連絡協議会による寸劇・講演



※地域ケアプラザ…高齢者、子ども、障害のある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点としてさまざまな取組を行っている横浜市独自の施設

取組 振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

図表18 取組の評価方法

短期的指標	中期的指標	長期的指標
振り込め詐欺防止のための知識向上	振り込め詐欺予防のための対策を実施する	認知件数及び被害金額の減少
講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数を計測	振り込め詐欺予防のための対策を実施している割合を計測	警察統計により振り込め詐欺認知件数及び被害金額を計測



取組 プログラムの評価（短期的指標）

- 講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数は、今後増加していく予定である

図表19 取組 プログラムの評価（短期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数	—	—	30回	35回	2018年3月末集計



取組 プログラムの評価（中期的指標）

- 被害者層を対象に、振り込め詐欺予防のための対策を実施している人の割合をアンケートにより把握していく予定

アンケート実施予定項目

図表20 アンケート実施予定項目

	はい	いいえ
■振り込め詐欺について どういう手口があるかしていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■振り込め詐欺対策の知識について 留守番電話、家族間での話し合い、合言葉などの対策は？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■振り込め詐欺対策の実践について 知っているだけでなく、実践していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■最新の手口について 警察官や銀行員などがキャッシュカードを受け取りに来ることはないと知っていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	2013	2014	2015	2016	2017
振り込め詐欺予防のための対策を実施している人の割合	—	—	—	—	46% (2018年3月現在)

図表21 取組 プログラムの評価（中期的指標）

取組 プログラムの評価（長期的指標）

- 振り込め詐欺の認知件数及び被害金額とも2013年から高い数値で推移している。今後も取組を続けることで、認知件数・被害金額の減少を目指す

図表22 取組 プログラムの評価（長期的指標）

	2013	2014	2015	2016	2017
①認知件数（警察統計）	24件	27件	27件	25件	55件
②被害金額（警察統計）	8,199万円	1億82万円	6,815万円	9,525万円	1億8937万円

今後の取組 被害者へのアンケート実施

■被害者へのアンケート実施

- 振り込め詐欺被害者に対してアンケートを実施
- 金銭的ダメージ、自責の念、家族からの孤立、周囲からの避難など、振り込め詐欺が心身に与える影響を把握し、対策を検討

分科会において、今後アンケートの実施方法や回答内容の分析・対策などを検討していきます。

■被害者支援の検討

- 被害の深刻化を防ぐため、被害者に対して相談窓口の紹介を実施



19

その他の取組 不特定多数の区民に対する啓発実施

■街頭キャンペーン等による啓発

- 分科会委員の協力のもと、振り込め詐欺防止やネット犯罪に関する注意喚起などの啓発チラシの配布
- 区民まつり等イベントにおける啓発や交通安全対策と連携した取組
- 金融機関での声掛け



図表23 街頭キャンペーン等による啓発①



図表24 街頭キャンペーン等による啓発②



20

その他の取組 防犯パトロール

- 分科会委員の協力のもと夜間における防犯パトロールを実施
- 登下校時における見守り活動を実施



図表25 夜間の防犯パトロール



図表26 登下校時の見守り活動



その他のプログラム

- 分科会構成員の協力を得て防犯灯をLED化し、防犯灯の照度を上げることにより、犯罪の発生抑止につなげている

【2014年度 電柱共架型】
横浜市 約115,000灯
栄区 4,724灯（原則全灯）

【2016年度 鋼管ポール型】
横浜市 約22,800灯
栄区 582灯（原則全灯）

図表27 電柱共架型防犯灯



図表28 鋼管ポール型防犯灯



その他のプログラム

図表29 その他のプログラムの取組実績

	2013	2014	2015	2016	2017
街頭キャンペーン等における啓発回数	6回	5回	5回	5回	5回
金融機関での声掛け回数	6回	6回	6回	6回	6回
情報配信サービスの登録者数及び犯罪情報の配信件数	811人 186回	887人 150回	885人 210回	916人 102回	876人 104回
防犯キャップ・防犯ベストの配布枚数	—	—	—	99個 76枚	5個 50枚

SAFE COMMUNITY

セーフコミュニティ活動による気づきや変化

□連携による効果的な取組の実施

個々に活動していた関係団体が連携することで、より効果的に取組を進めることができるようになった。

□顔の見える関係づくりの重要性の気づき

振り込め詐欺の防止対策としては、家族間や地域内でのコミュニケーションが重要であり、その広がりが安心感のあるまちづくりにつながる。

□新たな取組への広がり

セーフコミュニティ活動に取り組むことで、振り込め詐欺に関するアンケートや、相談窓口へのつながりなど、分野や領域を超えた新たな取組の検討へとつながっている。

□今後の課題の把握

区内の全犯罪認知件数の3割を占める乗り物盗について、現在セーフコ

今後の方向性

□身近な犯罪件数の軽減

殺人や暴行等の凶悪犯罪は少数であるが、「割れ窓理論」により身近な犯罪件数を減らすことで、安全・安心なまちづくりを進める。

□振り込め詐欺防止への重点的な取組

- ・ 関係団体と連携した、被害者層、被害者層の子・孫世代への啓発
- ・ 家族間、地域内でのコミュニケーションの重要性の啓発

□乗り物盗への対応

区内の全犯罪認知件数のうち32.3%（166件）が乗り物盗であり、特に自転車盗が119件と多数をしめるため、今後の課題として取り組んでいく。



ご清聴ありがとうございました

